

石狩、後志地方の観天望気

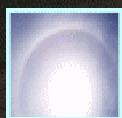
(海と天気の違い伝え集)



観天望気とは

- 自然現象・生物などの様子から天気を予想すること

「カエル、夜鳴けば快晴」



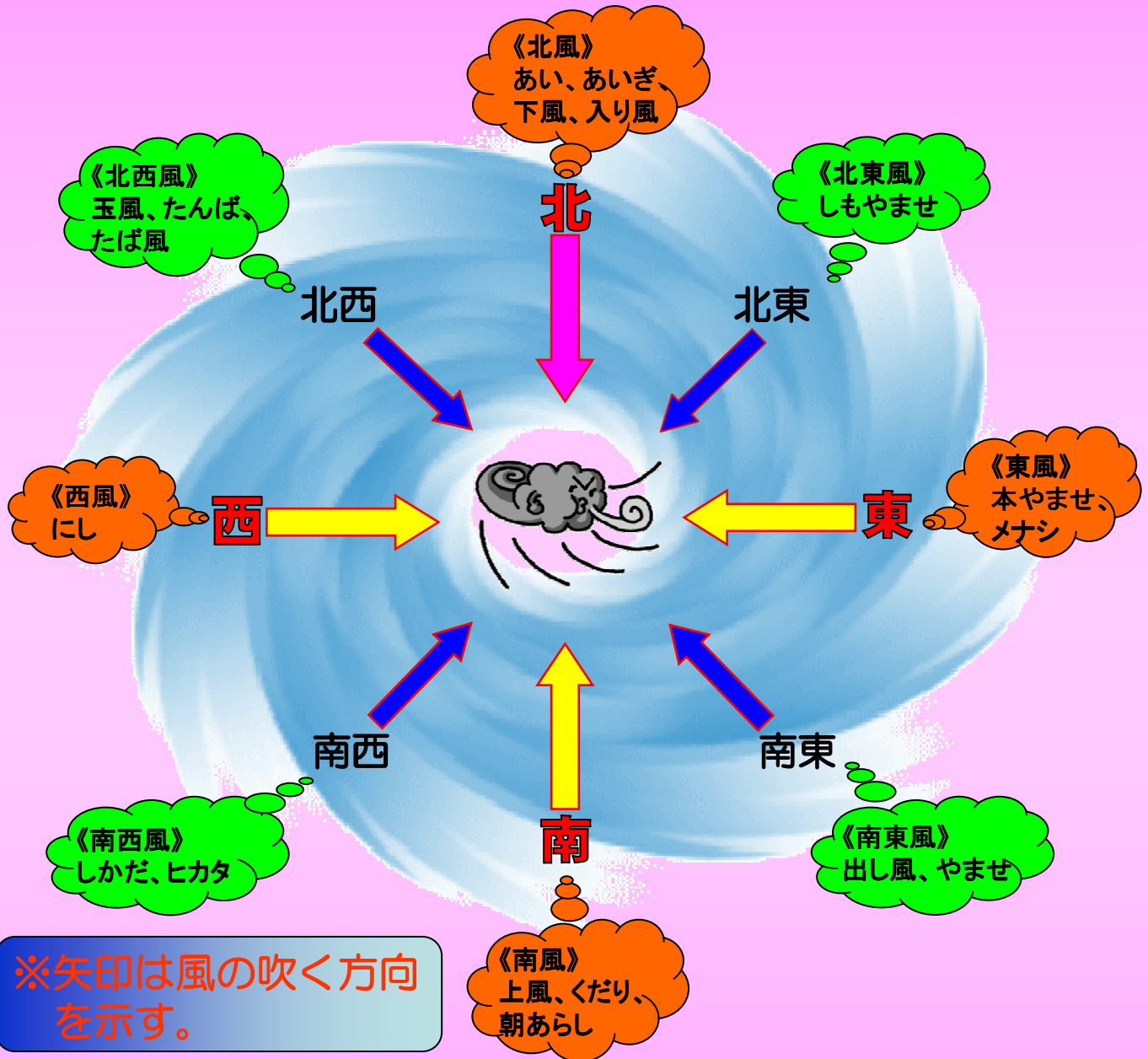
「お日様におやくかかれば雨となる」など

JAPAN COAST GUARD

小樽海上保安部

1 石狩、後志地方の気象・海象に関する言葉

(1) 風の方位別の呼び名



豆知識

風向は風が吹いてくる方向（例：北風といえば北から吹く風）をいい、海流・潮流の方向は流れて行く方向（例：北流といえば北の方向への流れ）をいいます。

(2) 風に関する言葉

- | | |
|-----------|---------------------|
| ・出し風 | 山側から沖に向かって吹く |
| ・入り風 | 日中吹く穏やかな北風 |
| ・朝あらし | 夜から朝がた吹く風でゆっくりとした南風 |
| ・したぎ又はしたき | 冬期急激に風雪が強まること |

(3) 雲に関する言葉

- ・すじ雲 巻雲（天気が良く、上空の風が強い日にすじ状にできる雲）
- ・いわし雲 巻積雲（細かい氷の粒でできた小さい雲の集まり）
- ・ひつじ雲 高積雲（ひつじのような固まりの雲が並んでいるようなくも）
- ・わた雲 積雲（わたのようにふわふわと浮いている雲）
- ・入道雲 積乱雲（雲の中で最も危ない雲。この雲の下では雷が発生したり、激しい雨が降ったりする。）



いとし雲



ひつじ雲



入道雲

(4) 地名に関する言葉

- ・小 樽 「オタ・オル・ナイ」（砂浜の川の中）に由来する。
- ・銭 函 ニシン漁で栄え、各家庭に銭箱があったとの伝説が由来していると言われる。
- ・札 幌 「サッ・ポロ」（乾いた大きい）であるとする説が有力である。
- ・石 狩 「イ・シカ（ラ）・ペッ」（曲がりくねった川）など諸説あり。
- ・後 志 後方羊蹄（しりべし）の語音にちなみ、後志国を流れる尻別川のアイヌ語「シリ・ペッ」（山の・川）をとり、音訳したもの。
- ・天狗山 山中に天狗火（火や煙など）が見え、天狗が棲んでいた説など諸説あり。
- ・積丹岬 「シャクコタン」（夏の村）に由来する。
- ・神威岬 「カムイ」（神）に由来する。（古くは御冠（カミ）岬とも呼ばれていた。）



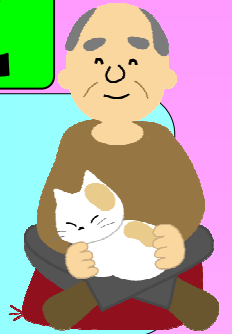
(5) その他

- ・雪虫（わな虫） アブラ虫科の昆虫で10月下旬の漬物用の大根洗いの時期頃から現れる
- ・潮ごみ 沖から岸に向かって風が吹くと海水が吹き寄せられ海面が高くなる現象（反対語 潮がれ）
- ・だいなん 漁師の言葉で沖合
- ・トロなぎ トロツとした油のような状態
- ・けあらし 湯気が立ち上る現象、蒸気雲
- ・出めん取り その日その日働いて賃金を貰う人

2 石狩、後志地方の言い伝え

古平

- ・積丹岳に雲がかかったら気をつける
- ・秋のやませ（南東風）の風と雨は危険信号
- ・風すじ変わると回復に向かう
- ・北～東北東の風はなぎが多い
- ・やませ（南東風）どこ行く、玉風（北西風）迎えに



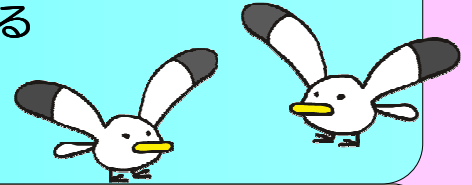
余市

- ・ヒカタ（南西風）どこへ行く、北風迎えに
- ・ヒカタ（南西風）は波を飛ばし、メナシ（東風）は雪を飛ばす
- ・人をとる風ヒカタ風（南西風）
- ・大黒山の雪が解け終わると南風が止む
- ・余市晴れば増毛が曇る、増毛晴れば雨がふる
- ・増毛の山が良く見えると雨が近い



寿都

- ・雷電岬が近くに見えたと出し風（南東風）が吹く
- ・海の潮虫（しおむし）浜に上れば沖がしける
- ・雪虫（ゆきむし）天気が変わる
- ・やませ（南東風）は潮がれ
- ・ごめの高飛び3日ともたず



小樽忍路

- ・神威岬がのびるとき（低く見えるとき）はしかだ（南西風）となり、たつときは（高く見えるとき）は下風（北風）吹く
- ・積丹岳が雲で見えなくなると北風が吹く
- ・小樽山、雄冬山が見えなくなるとやませ（南東風）吹く
- ・だいなん（沖合）行って羊蹄見えると2～3日後にしけがくる
- ・余市の尻場にボタン雲がかかるとしけになる
- ・忍路地区はあい風（北風）、玉風（北西風）厳しく、やませ（南東風）、しかだ（南西風）さほどでない

小樽塩谷

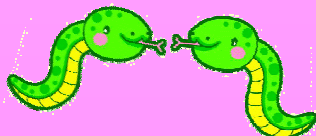
- ・お日様におやくかかれば雨となる
- ・やませ（南東風）のトロなぎ（しかし沖はしけている）
- ・あいぎ（北風）だと、窓岩の頂にボタ雲かかる

小樽港

- ・ちぎれ雲が飛ぶとまもなく雨
- ・しも、あい、たまはしけが多い
- ・やませ（南東風）強いと赤岩にボタン雲かかる
- ・朝あらし、入り風（北風）なぎよし

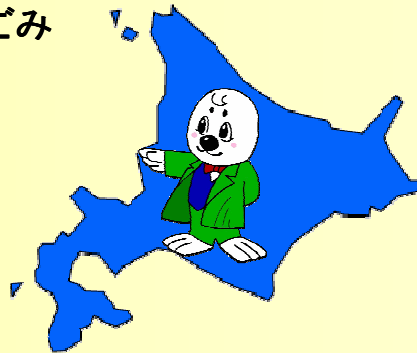
石狩

- ・鳥水に浴すれば雨近くにあり
- ・ヘビ、アブ多く出れば雨近し
- ・カエル、夜鳴けば快晴
- ・アリ、しきりに巣より出入りするは雨ちかし



3 全道共通の言い伝え

- ・やませ(南東風)は潮がれ、しかだ(南西風)は潮ごみ
- ・けあらしの出るときは、沖は玉風(北西風)が強い
- ・東の風、3日も吹けばなべの魚もなくなる
- ・あい(北風)とヒカタ(南西風)は人をとる風
- ・月に近星(ちかぼし)、しけとなる
- ・やませ(南東風)と化け物日暮れに騒ぐ
- ・山鳴りがすると出し風(南東風)が吹く
- ・沖の黒い雲の土手の切れ目から風が吹く



- ・ごめの高飛びやといの高まくら

⇒ 上空は風が強いのでカモメは風によって飛びます。風が強くなる知らせです。

- ・季節風のくだり(南風)が夜吹くと明日は雨となる

⇒ 春や秋に、この南風が吹くのは、日本海を低気圧が通るときで、低気圧の影響を受けて雨が降りやすくなる。

- ・朝露が降りると、お天気が良い

⇒ 朝霧が出たりするのは風がなく、また放射冷却がおきて冷え込んだときです。雲があると熱が逃げません。つまり、雲や風がない朝ですから、晴れやすい。

- ・朝こがれは雨の兆し

⇒ 東側は雲はなく晴れていて、そろそろ西側から雲がやってきて雨が予想される。(※こがれ・・・ここでは朝焼けの空の色を言っている。)

- ・朝の朝焼け、むこ泣かせ

⇒ 朝晴れ上がるのは悪天候の前兆、でも婿は気を使って早朝から野良仕事に出かけざるを得ない、そして風雨にあって婿が泣くという。

- ・星がキラキラすると翌日強風となる

⇒ 星の光がいつもよりキラキラ見えるときは、大気中の暖かい空気と冷たい空気が接触した空気の層を透して星を見るからで、上層に強い風が吹いているためと思われます。これは次第に下層へおりて来るため強風が予想される。

- ・あい(北風)の朝なぎ、くだり(南風)のタなぎ

⇒ 北風は朝一時なぎ、南よりの風は日中いくら吹いていても夜には弱まりなぎになる。

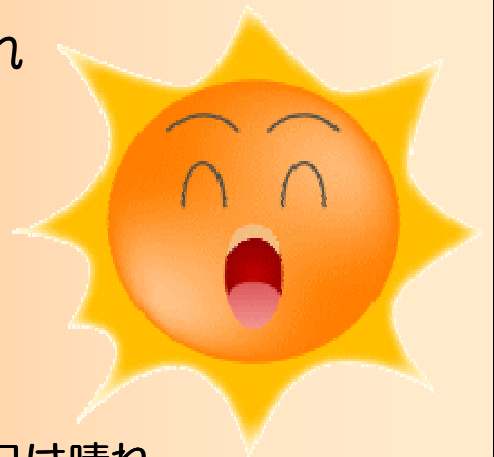
- ・夜雷起れば雨続く

⇒ 夜間の雷は、夏の午後日射によって起る熱雷と違って、前線や低気圧によって起るので、それが通過するまで止まない。

4 全国共通の言い伝え

(1) 天気が良くなる場合

- ・夕焼けの翌日は晴れる
- ・夕虹は晴れる
- ・冬期西か北西の風の時、太平洋側は晴れ、逆に日本海側では雪となる
- ・雲が北に飛ぶと晴れる
- ・空に雲ひとつない夜なら明日は晴天
- ・朝ぐもりは晴れ
- ・大風の明日は好天気
- ・東雷雨降らず
- ・春のかすみは晴れ
- ・春の北風は晴れ
- ・春の南風は3日雨降らず
- ・夏の入道雲は晴れ
- ・雨が降った後に虹が出ると翌日は晴れ
- ・煙が垂直に立ち昇れば晴れ
- ・夏の南風は晴れ
- ・夏は南が明るいと晴れ
- ・秋雨は涼くなれば晴れる
- ・秋の夜の北風は晴れ
- ・秋は西方が明るいと晴れ
- ・煙、東になびけば晴れ
- ・朝遠くの山がはっきり見えればその日は晴れ
- ・雲が沖から静かに上れば良い天気



(2) 天気にくずれる場合

- ・ 朝虹は雨
- ・ 朝焼けは雨
- ・ 春秋の東風は雨
- ・ 西が海鳴りすると天気は悪くなる
- ・ 日や月が笠をかぶると天気くずれる
- ・ 北風が南に変わると雨、南風が北に変わると晴れ
- ・ 朝の雷は大雨
- ・ 山近く見えれば雨
- ・ 3日続いて霜が降れば必ず雨
- ・ 遠くの音が良く聞こえれば雨
- ・ 羊雲やうろこ雲がでると翌日雨
- ・ 日本晴れ3日続けば3日以内に雨となる



(3) 風雨が強くなる場合

- ・ 青い夕焼けは大嵐
- ・ 山に笠雲がかかれば風雨の前兆
- ・ 星がしきりにまたたくと強風になる
- ・ 大うねりの波は暴風雨襲来の兆し
- ・ 海水濁りて潮流急なれば近日暴風あり
- ・ 海鳥が騒がしく舞い立ち鳴くときは暴風近し
- ・ 朝日の出する時その色青く見ゆるは大風雨の兆し
- ・ 上層の雲と下層の雲が相反して飛ぶときは暴風雨
- ・ 日の入りに雲の色青く見えて雲多く重なれば暴風の兆し
- ・ 冬期、海面に油を流したるが如き日あれば近く海荒れあり
- ・ 沖が高鳴り（沖合がうなっているようなひびき）する時は海荒れあり



海などで安全に遊ぶために！！

◎ 天気予報の事前確認

テレビなどにより、事前に確認を行い、無理のない計画を立てましょう。

◎ 最新情報の入手

携帯電話などにより、常に最新の気象情報を入手しましょう。

◎ 気象の変化に注意

雲の動きや、風の強さなど気象の変化に注意し、天気が悪くなりそうな時は、早期に避難しましょう。

天気に関する豆知識

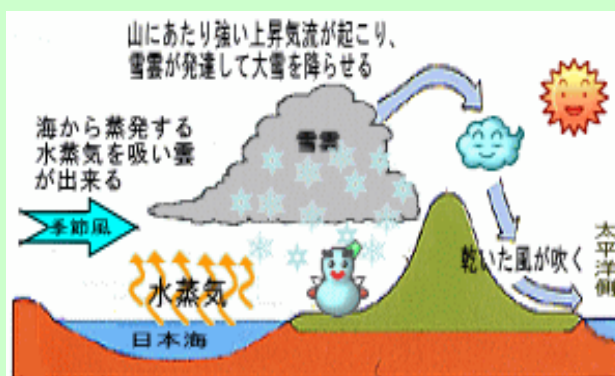
◎ 天気は西から東へ動く

日本の上空には、偏西風と言う西から東へ強い風が吹いていて、この風の影響により天気が西から東へと変わります。
天気は、1日1000kmくらい移動します。時速にすると40km/h程度になります。



◎ なぜ日本海側で雪がたくさん降るの？

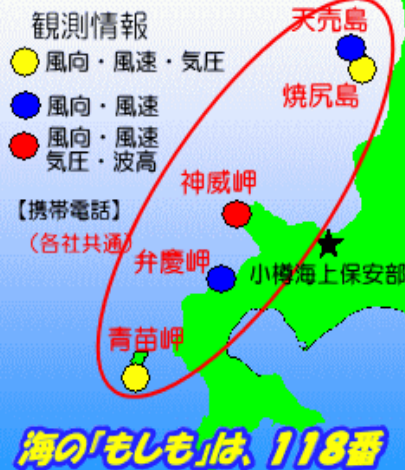
シベリアなどから吹く季節風の影響です。この季節風が日本海を通るとき水分をたっぷり含み、日本列島の高い山を越えるとき冷やされ、雪雲を発達させ日本海側に大雪を降らせます。太平洋側では、雪を降らせた後の空気が山を越えるので、晴れた日が多くなります。



最新の気象と情報

海上保安庁の沿岸地域情報提供システム（MICS）では、岬の灯台で観測した気象情報など海に関する情報を提供しています。（気象データは30分毎に更新しています。）
出かける前や外での気象確認に活用してください。

海に出かけるなら！



小樽海上保安部 気象観測情報

テレホンサービス

0134-23-1177

上記の番号に電話をかけ、ガイダンスにしたがってボタンを押すと、音声で「青苗岬・弁慶岬・神威岬・天売島・焼尻島」の気象情報を聞くことができます。

沿岸域情報提供システム(MICS)

<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/otaru/> (インターネット)

小樽海上保安部のHPや携帯サイトにアクセスすると、**○**内の気象情報を見ることができます。

その他MICSでは、地域に密着した海に関する様々な情報を入手することができます。



QRコード (各社共通)

海の「もしも」は、118番



海での事故防止 三つの基本！

～大切な命を自分で守る～

- ライフジャケットの常時着用
- 防水型・防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保
- 海のもしもは118番



小樽海上保安部